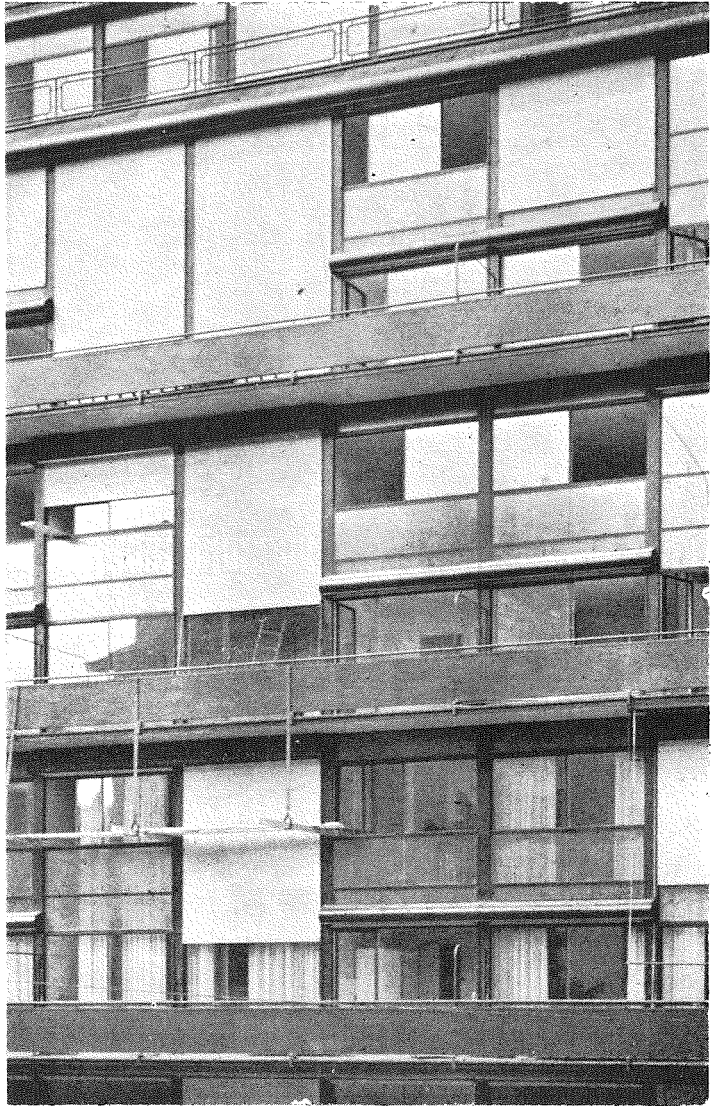
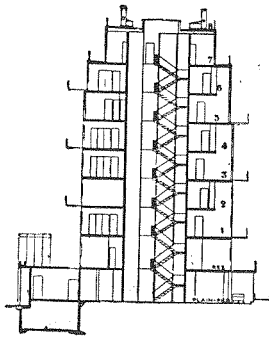




ゼネバに建つた
ル・コルビュジェのアパート

窓及びバルコン詳細



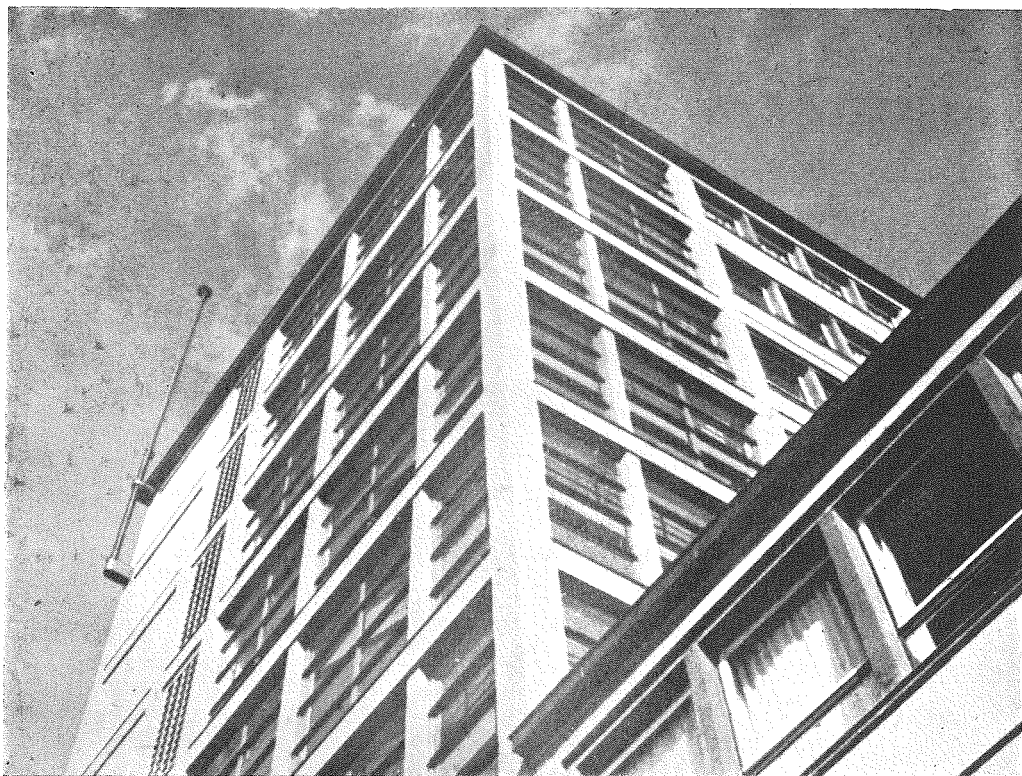
前の寫眞は入口のある側、上はバルコンと窓のデテイルである。

構造は全部溶接された鐵骨。ガラスがさかんに使はれてゐるので、正面から見ると殆んどガラス建築の感がする。壁の上下は特殊なすりガラスをつかひ、中央は普通の透明なガラス。その上に兩側の溝を上下する精巧な日よけが設備され、薄くも濃くも變化する壁體

をつくつてゐる。

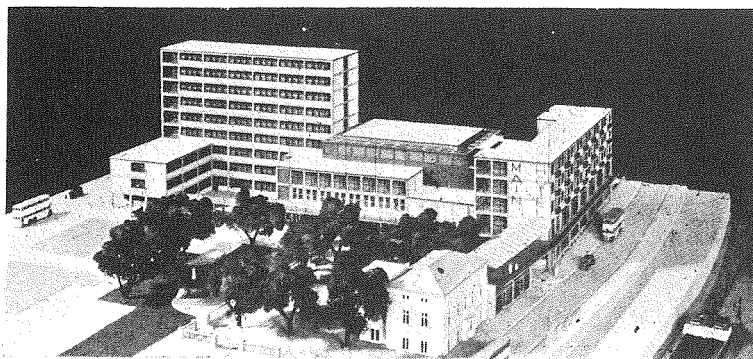
三階以上は住宅で、一住宅は一層になつてゐる（圖參照）そしてバルコンが兩側に交互に設けられ、建物の兩端を引きしめるバンドになつてゐる

* 新興建築の巨將ル・コルビュジェの名はあまりに有名である。こゝには彼の1931年の近作をあげた。（川喜田棟七郎）



フランクフルト・A・Mの獨逸アーレゲマイネ
労働組合聯盟事務所—^{**}マツクス・タウト作

壁のないスケルトンbau(骨組建築)



** マツクス・タウトは、かつて表現派の大立物であつたアルノー・タウトの弟で、アルノー・タウトがかなり幻想的な建築を紙の上にかいてゐた頃から、よほどしつかりした現實的な作品をつくつてゐた。アルノー・タウトが、ベルリン市の建築家として合理的な方面に轉向すると同時に、彼の作品は更に尖端的なものとなつて行つた。之は彼の最も新しい代表作である。(川喜田)